



35

Lunar Calendar 陰曆 の節句 華林の華の会

Sairyuka art and old Asian philosophy rooted in nature

桑

くわ

樹心院 華林



桑の葉は独特の印象的な形。実は黒く熟すると美味しく、ドドメ、マルベリーとも。

桑の木は養蚕に不可欠な樹で、蚕（かいこ）がつくる絹糸から美しい織物がつくられます。かつてシルクロードが絹を運ぶ道としてアジアを中心とした広大な地域に大きな影響をあたえたように、絹織物はたいへん魅力的なもので文化のみならず政治経済や一国の興亡にまで大きな影響をあたえました。

長い糸を紡ぐのに欠かせない糸巻きや、紡いでできた糸をタテ、ヨコと織り込む機織りは、古来、重要な文化でもありました。オリヒメさまは七夕の主役で、機を織る女性です。『鶴の恩返し』のお話では鶴は自らの羽を混ぜて美しい布を織ります。西洋の詩でも沖繩の舞踏でも、糸巻きをする女性は恋の主役には欠かせない存在でした。

そこでは、糸巻き器や機織りを回転させるしぐさが、どこか女性らしい美しさを感じさせるものであったことも影響しているでしょう。『回転』や『渦』は貴いこととして古代の文献にもよく登場してくるのです。

明治時代から昭和のあるころまで、数多くの繊維関係の町工場が日本の経済を支えていました。しかし、時代とともに大きな工場に集約されてゆき、また人件費が安い国々の繊維製品にとって代わられて、今では糸巻きや機織りを目にすることは一般には難しくなっているようです。

古くは、七夕に和歌を梶の木（カジノキ）の裏に墨で書いて短冊として吊るすという風習があったとされますが、梶の木は桑と同じクワ科で、桑とよく似ています。細かい毛が密生して裏が白い葉の、その独特な形もよく似ています。そして桑の葉の裏にも筆で文字が書けます。梶の木は日本のごく一部の地域にしか生えていないようです。養蚕業が衰退して荒れ放題の桑畑が多いそうなので、古来、高貴の木とされた桑でなにかと遊んでみるのもいいかもしれません。

彩流華 第35号・目次

華と文 …………… 2

桑 くわ

新緑を生ける …………… 4

陰暦の節句 …………… 6

華林の華の会

天地の音（歌と句） …… 10

宮崎の岬にて

禮華 …………… 裏表紙

表紙 彩流華・火の華

華林

なつはぜ 一色

陶三ツ足花器

意匠／華林

制作／前田弥富

陽（火・日）の華は器に対して
やや小さめに生け、大きくな
ろうとする姿を生けます。

6月15日 華林苑にて

華林苑ニュース は

この号では別刷です

（彩流華・風の華／艸型（崩した形） 桑の木
陶華器：意匠／華林、制作／前田弥富
華／華林 6月15日 華林苑にて



ユズリハ（杠）の新緑



今年の葉が成長すると去年の葉がいさぎよく散ることからきたとされるユズリハの名前。若い葉の赤い葉柄が美しい。

彩流華・なげ入れ調：ユズリハ、バイカウツギ、レースフラワー

陶花器：意匠／華林 制作／前田弥富 華／華林

5月25日 華林苑にて

若い葉が赤みを帯びる木はよくあります。新緑と呼べるのか、その一歩手前なのか……。赤い色素はまだ弱い葉の組織を紫外線の害から守るため、とも言われます。切れ込みが大きい赤茶と緑の葉がミツバツツジ。花が咲いた後です。

彩流華・なげ入れ調　：　ミツバツツジ（葉）、ノリウツギ、アスチルベ、ア
トランテイヤ　陶花器　：　意匠／華林　制作／前田弥富　華／華林

5月25日 華林苑にて



み　っ　ば　っ　っ　じ
三つ葉躑躅の新緑

陰暦の節句の華の会

はな

上巳じょうしの節句（ひな祭り）の本来の意味は「三月の最初の巳みの日」ということですが、歴史上に残る一番古い記録でも、この巳の日（年と同じで毎日に当てはめられる干支えと）ではなく三月三日に行われています。名前だけが上巳で、実際は「三」が重なる三月三日を祝っているのです。端午たんごの節句も名前だけが五月の最初の午うまの日で、実際は「五」が重なる五月五日を祝っているのです。

数字はアジアの伝統文化では何よりも重い意味を持つと言えます。一月一日のお正月はもちろん、三月三日、五月五日、七月七日（七夕）、九月九日（重陽じゅうじゅうの節句）の陽数字（奇数）が重なる日を節句として重視しています。そしてその日を決める暦は、新月の日を毎月の一日とする『陰暦』が根拠となっていたのです。

今年、華林は陰暦の節句に「華の会ゑ」をおこないました。陰暦は、今日の暦にあてはめるとその年によって一ヶ月弱から二ヶ月ちかくもずれるのですが、本来のその節句の季節感を醸し出すには最適と言えます。

陰暦・上巳の節句 華林の華の会

じょうし

西王母と桃 より

3月30日＝陰暦三月三日 ～ 4月2日
金沢・東山 ひがし茶屋街 桃組十晴組

メインテーマの西王母は古代中国の神話の神。虎の化身とされ、桃にまつわる伝承が印象的。

絵（軸）「西王母」／華林

彩流華・なげ入れ調／華林

桃、キブシ、椿：木製龍紋花器（中国製）

器の意匠／華林 軸装／永嶋明

桃花の本来の季節で、露地咲きで力強い。



Lunar Calendar 陰暦 の節句 華林の華の会

絵(軸)「龍図」／華林

彩流華・なげ入れ調／華林

ギンバ、三つ葉ツツジ、椿、マトリカリア

… 飾り柱の方形高足陶花器 器の意匠／華林
陶器制作／前田弥富 軸装／永嶋明 龍は西
王母と対照的な性格。東西の対比にも喩えられる。

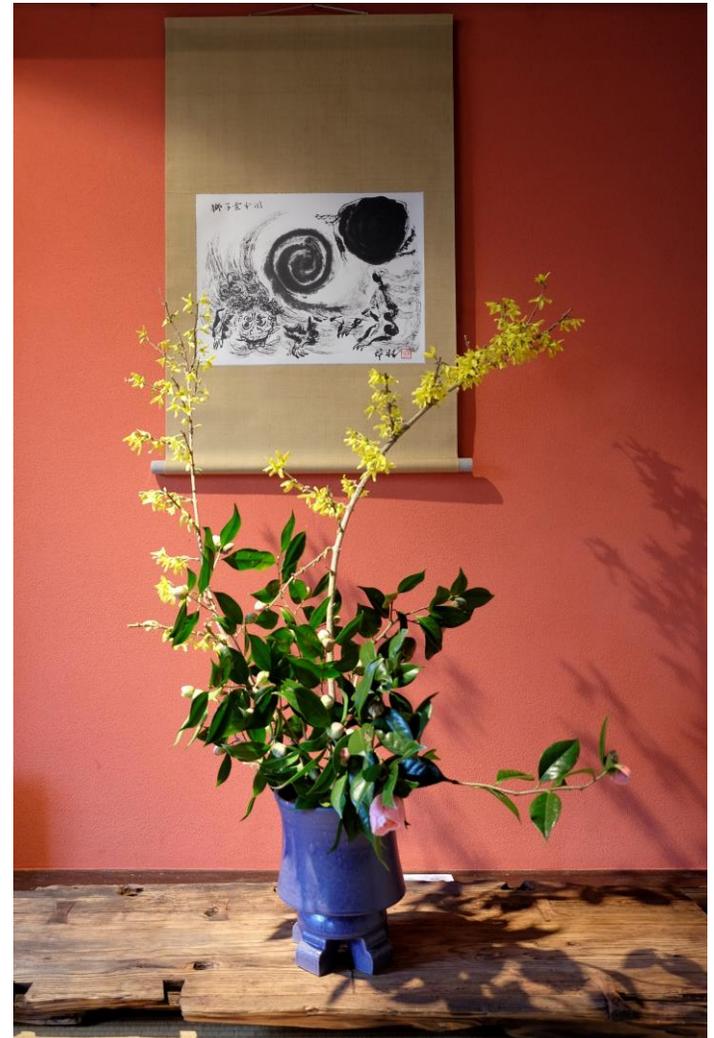


印象的な赤い壁の和風建築に華、絵、器がよく映えました。ほかに濃い緑の壁の間その他、独特の空間に華林の書画と華、絵が飾られました。

挿花協力／荒清照華、
長尾泓華。



お茶室のほの暗い空間に。
絵(軸)「円相 - 劔」／華林
彩流華・剣の華／華林 … 椿
(ヤブ椿)一色 … 方 - 円型陶
花器、白木花台



西王母は虎、獅子とよく似た一面を持つ。
絵(軸)「獅子雲中図」／華林 彩流華・なげ入れ調
／華林 … レンギョウ、椿 … 陶四足花器
器の意匠／華林 陶器制作／前田弥富 軸装
／永嶋明 ここでこの椿は園芸品種『西王母』。



神前に対瓶に。対瓶(ついへい)は荘重な生け方で、ハレの日などに床の間に生ける。神前、仏前などにも応用する。 向かって左/梅、松、赤ナデシコ。向かって右/松、梅、白ナデシコ。梅、松は天神さまにゆかりの木。ちなみに、荘厳(しょうごん=荘重な床飾りのこと。転じて神仏前の飾りの意味にも)では向かって右を「左」、向かって左を「右」と呼ぶのが正式。 ちなみに本殿はガラスの奥。

華 … 向かって左/森川理青、右/山崎理恵。

器 … 陶四足花器 … 意匠/華林 花台 … 年代物の木製四足花台。

足付きの花器に足付きの花台をもちいるときは重複する印象があつて不自然な場合は避けますが、かえって面白みを見せる場合もあります。

花器、花台の形も同様に重複を避けますが、さまざまな状況があるので最後は感覚的に決めるのがよいでしょう。

端午の節句の華の会では、華林にくわえて20人ほどの方々の生け花も拝殿、社務所などに飾られました。同じ和風建築でも今回は神社が会場で、神前に生けるといふこともふくめ、前回の上巳の節句の華の会とは趣きが大きく異なりました。

田井菅原神社は独特のいわれや伝統をもつ神社です。

陰暦・端午の節句 華林の華の会 たんどこ はなゑ
 しょうぶ つるぎ
 菖蒲と劔 より
 5月30日||陰暦五月五日 ~ 6月4日
 金沢市 田井菅原神社



菖蒲(しょうぶ||沼シヨウブ)と撫子(なでしこ)は古来の取り合わせ。男性的なシヨウブと女性的なナデシコの対比が嬉しい。象嵌の薄端に投げ入れ調に生ける。華林挿。穂状の菖蒲の花がみえる。古来、劔のような葉の形、つんとする芳香が端午の節句に貴ばれる。軸は劔図(華林||右)と兜の飾り(山岸理波)||左。

色紙「天まんだ自在天神」／華林
 流華・禮華／椿、スターチスほか三足
 陶花器（華林の器） 插花／元田從華



軸『蛙図』／華林 彩流華・禮華／
 椿一色 … 方・円型陶花器、高卓
 插花／東森久華 絵、器の意匠／華林



軸は『円相 - 風』(左)と『円相 - 劔』(右)。風神雷神と
 同じ意味をあらわす。彩流華・風の華／椿一色 方・円
 型陶花器(意匠／華林＝華林の器)。 插花、絵／華林

左／古流の応用花 右勝手本手 …
 菖蒲、ピンポンマム、アザミ … 六
 角足付き銅器 插花／川島美穂
 右／古流の生花(せいか) 左勝手本
 手 … 花菖蒲 … 三足銅器 插
 花／堀田理華

絵(軸)「雷神劔図」／華林

花が豪華な花菖蒲(はなしょう
 ぶ)とお風呂に入れる菖蒲(しょう
 ぶ＝沼しょうぶ)は別の植物。端午
 の節句のほんらいの植物は菖蒲だ
 が、近年は花菖蒲のほうをよく生け
 る。右頁上写真の対瓶と同じ形。





宮崎の岬の先端に生えるスダジイの巨木

か
香ぐわしき 照葉の織りなす天つ傘

わたつみ

海 息吹きて

あや ひかり
彩なす光



ユキノシタの群生

見つけたり おもしろ顔の小宇宙



調べてみたら

“ウリの木”という名前

われもまた 負けじと

くだ巻く 昼下がりに

あめつち
 天地の音 — 花の譜

富山県の海岸沿いの東端、
 宮崎の岬にて。美しい植物が
 多い。6月20日。

著者(編集制作)紹介 / 樹心院 華林 江戸時代なかば江戸でおこった花道「古流」の江戸期の家元以来の多数の蒐集書類、伝書、伝承口伝を継承、そのうえでアジアと日本の古来の伝統・哲学を研究、その発表活動を独自の生け花「彩流華」ならびに墨絵・和歌・写真その他の創作活動とあわせておこなう。一九五三年石川県金沢市生れ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒、各種の出版研究活動をへて現在に至る。

華林苑 公開講座と華道教室 詳細はHPに [http:// karin-en.jp/](http://karin-en.jp/) 「彩流華 華林苑」
華林苑東京教場 / 文京区音羽 東京メトロ有楽町線護国寺駅1分、花和ビル九〇三号
華林苑金沢教場 / 石川県金沢市 JR金沢駅東口、ライプービル地下



彩流華・禮華：ハナミズキ(紅白)、ウワミズザクラ(花のあと) 華林挿

軸：『円相・風』他(五軸のうちの三軸) / 華林 軸装 / 永嶋明

陶花器：意匠 / 華林 制作 / 前田弥富 4月27日 華林苑にて

ハナミズキは北アメリカ原産。路地や庭木でよく見かけます。ウワミズザクラは日本の山野に自生し、春、桜とは思えない房状の花を咲かせますが、生けているのは花が散ったあとの葉と幼い房状の実です。枝や実の房の曲線もとても繊細で美しいものです。両者を判別できますか？

彩流華 第三十五号 二〇一七年(平成二十九年) 八月二十八日発行

著者(文・作品・写真) / 華林(樹心院) 制作発行 / 華林苑出版局 [http:// karin-en.jp/](http://karin-en.jp/) 「彩流華 華林苑」

石川県金沢市大工町九番地 〒920・0982 Tel・Fax (076) 265・6531